

第4次なかふらの町読書活動推進計画

中富良野町教育委員会

第4次なかふらの町読書活動推進計画の概要

子どもの読書活動の推進に関する法律

中富良野町教育大綱

北海道子どもの読書活動推進計画

中富良野町第8次社会教育中期計画

第4次なかふらの町読書活動推進計画

《 目 的 》

町民が自主的に読書活動を行えるようきっかけ作りや習慣作りを図ると共に、読書を通じ人間力の向上や人間関係の形成に資することを目的とする。

家庭・地域

- ・子どもの読書習慣の定着、家読の推進
- ・ブックスタート、ブックスタートプラス
- ・読み聞かせ会などの読書活動

連携・協力

学校（学校図書館）

- ・各学校独自の取り組み、朝読の推進
- ・学校司書と連携した読書活動、環境整備
- ・各小規模校の巡回図書の実施
- ・町図書館、団体からの支援

中富良野図書館

- ・読書環境の整備、各種サービスの提供
- ・図書館まつり等イベント開催、情報発信
- ・読み聞かせサークル・ボランティア育成
- ・道立図書館等の関係機関との連携

目 次

第1章	なかふらの町読書活動推進計画の基本方針	・・・・・・・・・・	2
	1. 読書活動の意義	2. 計画策定の背景	3. 計画の目的
	4. 計画の体系	5. 計画の対象	6. 計画の期間
第2章	第3次なかふらの町読書活動推進計画の取り組み状況	・・・・・・・・・・	4
	1. アンケートの分析結果について (小学生・中学生・保護者（未就学児）・ 小学校・中学校・保育施設・関係団体・来館者)		
	2. 推進方策・各重点項目の確認について		
	Ⅰ 家庭・地域における読書活動の推進		
	Ⅱ 「中富良野町図書館」としての役割		
	①読書活動の普及と各種イベントの開催		
	②利用者ニーズへの対応		
	Ⅲ 学校などにおける読書活動の推進		
	①児童生徒の読書習慣定着と環境整備		
	②児童巡回図書の実施		
	③学校（学校図書館）との連携		
第3章	第4次なかふらの町読書活動推進計画の取り組み	・・・・・・・・・・	10
	Ⅰ 家庭・地域における読書活動の推進		
	Ⅱ 中富良野町図書館における読書活動の推進		
	①複合施設「なかまーる」での図書館機能の強化		
	②学校・学校図書館への公共図書館からの支援		
	Ⅲ 学校などにおける読書活動の推進		
	①読書習慣定着への取り組み		
	②児童巡回図書の実施継続		
	③学校（学校図書館）・学校司書・図書館司書との連携		

第1章 なかふらの町読書活動推進計画の基本方針

1. 読書活動の意義

情報通信技術の普及により中高生のスマートフォン保有率の増加や小中学校におけるGIGAスクール構想による1人1台端末の整備等により、日常生活の中で子どもたちを取り巻く情報環境が大きく変化している中、子どもの読書離れ、活字離れが学力低下の原因としてクローズアップされており、その要因として、テレビやインターネット、スマートフォンなどの様々な情報メディアの発達・普及の影響や、幼少期における本への関心の薄さなどが指摘されています。

「子どもの読書活動の推進に関する法律」第2条で読書活動は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かにするとあるように、人生において財産となり、得た知識は生きていくうえで大きな力にもなります。特にこれからの次代を担う子どもたちが健やかに成長するためには、考える力を培い、豊かな情操を養い、幅広い知識を習得するためには、幼少期に読書習慣を身に付けることが大変重要であり、子どもの読書活動の推進に当たっては、学校、家庭、地域が中心となって社会全体で取り組む必要があります。

2. 計画策定の背景

平成13年12月に「子どもの読書活動の推進に関する法律」が施行され、それを受けて、道教委においては、平成15年11月に「北海道子どもの読書活動推進計画」を策定しました。さらには、平成20年6月には、2010年（平成22年）を「国民読書年」にすることが衆参両院本会議において決議されました。決議では、「人類は文字・活字によってその英知を後世に伝えてきた。更に発展させ、心豊かな社会の実現につなげていくことは、今の世に生きる我々が負うべき重大な責務である。」としています。

本町でも、これらの趣旨に基づいて、子どもたちだけではなく成人も含めた全町民を対象にした「なかふらの町読書活動推進計画」を策定し、読書活動に対する体制、環境整備、読書週間を身につけるための取り組みを推進してきました。

3. 計画の目的

第3次計画（H30～R4実施）の期間が令和4年度で満了となることから、その計画の推進状況を検証し、今後も継続して子どもの読書活動の推進を図ることが必要です。

町民がいつでもどこでも自主的に読書活動が行なえるよう、きっかけづくりや読書活動の習慣づけを図るとともに、読書を通じて人間力の向上や人間関係の形成に資す

ることを目的として、法の基本理念や北海道の推進計画を基本に、読書活動に関する施設や学校、ボランティア団体と中富良野町図書館などが連携し、「第4次なかふらの町読書活動推進計画」（以下「第4次計画」という。）を策定します。

4. 計画の体系

第4次計画の目的を達成するために、次に掲げる基本的な推進方策により、読書活動を推進します。

推進方策	重点項目
I 家庭・地域における読書活動の推進	1. 子どもの発達段階に応じた読書への関心を高める取り組み 2. 図書事業による「絆」づくり 3. 読み聞かせサークル・ボランティアとの連携・協力
II 町図書館における読書活動の推進	1. 町民が気軽に利用できる環境整備と積極的な情報発信 2. 複合施設中の図書館として関係機関と連携した取り組み 3. 公共図書館として、学校・学校図書館への支援
III 学校などにおける読書活動の推進	1. 児童生徒の読書習慣への取り組み 2. 児童巡回図書の実施継続 3. 学校（図書館）との連携

5. 計画の対象

第4次計画の対象は、年齢にこだわらず中富良野町民全てとします。

6. 計画の期間

第4次計画の期間は、令和5年度（2023年度）から令和9年度（2027年度）までの5年間とします。

また、必要に応じて計画の見直しを行いません。

第2章 第3次なかふらの町読書推進計画の取り組み状況

1. アンケートの分析結果について

令和4年12月に、各小中学校5校と児童生徒、子ども園・保育施設とその保護者（2施設）、関係団体、来館者に対し、「《本と読書》に関するアンケート」として調査を行いました。その調査結果より第3次なかふらの町読書推進計画の取り組み状況を以下の通りまとめます。

○小学生

小学3年生（以下、小3）38人と5年生（以下、小5）33人を対象とし、71人から回答がありました。

設問「本を読むこと」では、小3が79%、小5の61%の児童が「好き」・「まあまあ好き」と回答しています。また「本をどうして読むのか」という問には、小3が68%、小5の70%が「おもしろいから」と回答しています。

同時に「1ヶ月の読書冊数」についても「6冊以上」が、小3が63%、小5が24%、「3～5冊以上」が、小3が34%、小5が34%と、多くの小学生が本を読むことに楽しさを見出しているようです。

○中学生

中学1年生（以下、中1）37人と3年生（以下、中3）38人を対象とし、75人から回答がありました。

設問の「本を読むこと」に対し、中1が59%、中3の69%の生徒が「好き」・「まあまあ好き」と回答しています。一方、「読まなかった」と回答している生徒が、中1が8%、中3が26%となっています。児童においては「読まなかった」割合は小3が3%、小5が12%であり、年齢が上がるにつれ、読書離れが進んでいるようです。

○共通

「自分用のスマートフォンの所持」では、小3が10人、小5が8人、中1が16人、中3の22人が自分用のスマートフォンを所持していることがわかりました。

また「知りたいことがあるとき、どうやって調べるか」という問いに、「インターネットで調べる」と回答した割合は、小3が25人、小5が23人、中1が34人、中3が37人と、過半数の子どもがインターネットからの情報を活用していることがわかります。このことからICTが生活に深く根付いていると思われれます。

急激に変化する時代において、読解力や想像力、思考力、表現力等を養う読書活動は不可欠であり、社会全体で子供の読書活動を推進する必要があると考えます。

○保護者（未就学児）

なかふらのこども園と、キッズハウスたんぼぼ園を利用している保護者を対象とし、53人に調査しました。

「好き」・「まあまあ好き」と回答した割合は68%と、ほとんどの保護者が本に対して良い感情を持っていることがわかりました。設問「誰が子どもに絵本などを読んでいるか」に対しては、「母」52人、「父」34人、「祖父母」11人、「(子どもの)きょうだい」9人の順に続き、読み聞かせが家族間の交流のきっかけとなっているようです。また「読み聞かせを始めた時期は何歳からか」という質問に対し、「0歳から」と答えた割合が85%と、【ブックスタート事業】が本と親しむきっかけづくりとして十分に有効であることがわかりました。

「幼い頃から本に親しむことは大切だと思うか」という質問に94%の保護者が「思う」と答えていることから、保護者に対して読書推進の活動が有効に機能しているといえます。

【ブックスタート事業】とは

《ブックスタートは、0歳児健診などの機会に、「絵本」と赤ちゃんと一緒に絵本を開く楽しい「体験」をプレゼントする活動です。赤ちゃんと一緒に保護者が、絵本を介して、心ふれあうひとときをもつきっかけを届けます。(NPOブックスタートジャパンより)》

中富良野町においては平成16年度からブックスタート事業に取り組んでいます。平成27年度からは1歳児・3歳児も対象としたブックスタート事業のフォローアップ活動「ブックスタートプラス」も行っています。

○小学校・中学校

小学校は中富良野小学校、旭中小学校、宇文小学校、西中小学校の4校に、中学校は中富良野中学校の1校、それぞれ担当教諭を対象とし、調査を行いました。

「読書活動を盛んに行っているか」という質問では、小学校は「盛んに実施」しており、全ての小中学校で「全校一斉読書」を実施して、内4校では「読み聞かせ」を行っているなど、各学校で積極的に取り組んでいることがわかりました。

また、各学校では学校図書館利用のための工夫が見られました。「読書の木」、「しおり作り」、「貯本通帳」といった独自の取り組みや、図書館内の飾り付けやポップ作りなど、学校図書館を利用しやすくする工夫を行っていることがわかりました。

「学校図書館に対する要望・町図書館への要望」としては、中富良野小学校と中富良野中学校を一体型施設として改築する新校舎での学校図書の有効活用や、学校での図書館司書の常勤などの要望がありました。

このことから各学校と連携を図りながら、それぞれの課題に適した効果的な取り組みを、模索していく必要があります。

○保育施設・関係団体

保育施設としてなかふらのこども園と、キッズハウスたんぼぼ園の2施設に調査を行いました。

両施設ともに、「本棚や図書コーナーを備えた場所があるか」に対し「ある」と答え、「どのような読書活動をしているか」については「絵本や紙芝居の読み聞かせ」以外にも、「講演会や研修会の開催」なども行っていることがわかりました。

また、「読み聞かせをすることは大切だと思うか」という設問にも、「非常に大切だと思う」と答えており、「読み聞かせの頻度について」も「毎日」行っていることから、共に読み聞かせ活動に非常に力を入れていることがわかりました。

関係団体としては、中富良野町児童館、読み聞かせサークル「ぴのきお」の2団に調査しました。

両団体とも「読み聞かせ活動全般について、町図書館と連携し、子どもの読書活動の促進に取り組んでいるか」という設問に対し、「積極的に取り組んでいる」と回答していることから、町図書館との連携体制が構築されていることがわかります。

しかし「図書ボランティアネットワークづくりに取り組んでいますか」という設問に対しては、両団体も「あまり取り組めていない」と回答していることから、各団体やボランティアの間での連携や取り組みがなされておらず、今後はこうした連携を支援していく必要があります。

○来館者

来館者にもアンケートに協力していただきました。館内窓口に設置したアンケート用紙とインターネットから回答をいただき、「あなたは本を読むのが好きですか」という設問に対しては72%が「好き」、21%が「まあまあ好き」と回答しました。

「図書ボランティア活動に興味や関心、または参加してみたいと思いますか」という設問には回答いただいた方の、86%が「(興味や関心が)ある」と答えています。

2. 推進方策・各重点項目の確認について

次に第3次計画において推進方策・重点項目とした3項目の方針について、アンケート結果や取り組んできた内容を検証して、第4次計画の方針策定の参考とします。

I 家庭・地域における読書活動の推進

乳幼児期の読み聞かせは、子どもが本の楽しさを知る大切なきっかけづくりとなります。また、本の楽しさを知った子どもたちが、次に本と出会う喜びを知るためには読書の習慣化が必要となります。その礎となるものとして第2次計画で「家読（うちどく）」を推進して、第3次計画でも継続して取り組みを進めてきました。

「家読」とは「家庭読書」の略語で、「家族ふれあい読書」を意味します。この家読は、「朝読（朝の読書）」の家庭版として考えられています。家族で本を読んでコミュニケーションをとり、「家族の絆づくり」を図ることを目的としています。同じ時間、同じ空間を家族で共有し、読んだ本について語ることで、本をより好きになれるよう働きかけを行ってきました。

今回のアンケート結果から、「絵本の読み聞かせなどをしてもらったことがあるか」に対し、「たくさん読んでもらった」割合として、小3が64%、小5が56%、中1が59%、中3が66%の回答があったとおり、どの年代も半数以上の多くの家庭・保護者において、読み聞かせが実践されてきたことがわかります。

中富良野町では平成16年度から「ブックスタート事業」を継続して実施しており、乳幼児期に本と接する機会となっていることがわかりました。

《第4次計画の取り組みに向けて》

子どもの成長過程で読書は必要不可欠であり、家庭での読書週間を身につけるためには、日頃から本に接する機会を設けることが大切です。その習慣作りとして、平成27年度より7ヶ月児・1歳6ヶ月児・3歳児健診時のブックスタートプラスを新たに始めました。また平成29年度からは幅広く絵本と接することができるよう、ブックスタート事業の際に図書館で作成した「ブックリスト」の配布を始めました。

図書館では、子どもの読書活動を推進するために、季節の変化や行事に合わせた児童向けの図書の展示や、ゲーム的な要素を取り入れたイベントや貸し出しの取り組みを行い、図書館や本を楽しめるような工夫を凝らしてきました。

一般の町民に向けても、「広報なかふらの」や「図書館だより」、ホームページなど様々な媒体を活用して読書に関する情報発信を行ってきましたが、今後も取り組みを継続して、町民の本・読書に関する意識を高めていきます。

II 「中富良野町図書館」としての役割

平成26年度にオープンした複合施設「ふれあいセンターなかまーる」において、「中富良野町図書館」として、新たに乳幼児読み聞かせコーナーの設置や、閲覧コーナーやAVコーナー、学習スペースなどの設備を充実して、親子を含め、子どもから高齢者まで幅広い年代が利用しやすい環境を整備したことにより、今まで以上に町民が気軽に利用でき、たくさんの本と出会い、読書を楽しむことができる場として、読書活動の推進に大きな役割を担ってきました。

また、本の貸し出し業務の他にも本町の自然や歴史・文化に関する資料の収集・保存やレファレンスサービスなど様々なサービスを提供しています。

①読書活動の普及と各種イベントの開催

夏・冬には「読み聞かせ会」、秋には「図書館まつり」の会場として、また、小学生を対象とした一日司書体験など図書館司書の企画により、各種イベントを積極的に開催することで、町民に向けた読書活動の普及を推進してきました。

②利用者ニーズへの対応

平成26年度から、閉館時間を18時から試験的に水曜日に限り20時45分まで延長して夜間利用者への対応も実施してきました。また、コロナ禍による図書館休館中は、図書消毒器を導入し、インターネット予約による図書宅配サービスや、町内の特別養護老人ホームこぶし苑の入所者向けに、図書館司書が選書した図書の定期貸し出しを実施するなど、外出できない利用者に向けた新たなサービスを実施しました。

《第4次計画の取り組みに向けて》

複合施設として多くの来館者が訪れるメリットを生かし、充実した環境を備えた中富良野町図書館は、閲覧コーナーや読書スペースも整備されて、児童コーナーには親子が、学習コーナーは中高生が利用し、読書以外にも読み聞かせや学習の場、イベント会場として多くの人が集まる場所となり、多種多様なサービスを提供できるようになりました。

また、これまで取り組んできた夜間開館や宅配サービスなどの取り組みを検証し、今後も利用者のニーズを把握し、町民へのアンケート等を参考にしながら、図書館を有効に活用してもらえよう取り組んでいきます。

Ⅲ 学校などにおける読書活動の推進

学校は子どもたちが日常的に本に接する場所として、読書活動や読書指導の場としても重要な役割が求められています。読書活動を通じて人間形成、自己形成に大きく影響し、学力の向上につながるだけでなく、人と本、そして人と人のつながりも生みます。また「生きる力」を育むことを目指し、読書活動から「思考力、判断力、表現力」などを学び取ることを目的とし、本町教育の目指す姿である「心豊かに学び、明日のふるさとをともに創る人を育む」につながるよう推進してきました。

①児童生徒の読書習慣定着と環境整備

朝読書の継続と読み聞かせサークル・放課後子ども教室事業の際も読み聞かせ会の実施や、読書活動事業へ参加することで読書習慣の定着を目指しました。

令和元年度からは教育委員会に学校司書1名を配置して、定期的に町内小中学校を巡回して図書の整理、ポップの作成、飾り付けなどの環境整備や運営支援を行っており、児童生徒の学校図書館の利用促進に努めています。

また今回のアンケートから、各学校においても独自の取り組みにより読書の奨励や、学校図書館の利用促進を工夫して行っていることがわかりました。

②児童巡回図書の実施

平成25年度より開始しました各小規模校における巡回図書により、町立図書館を利用することができない子どもたちに読書機会の提供をすることができました。

③学校（学校図書館）との連携

学校と読み聞かせサークル・ボランティアやPTAと連携し、読み聞かせ会をはじめとした読書活動の実施に努めました。平成29年度からは町内全小中学校で読み聞かせ活動を実施しています。

また平成26年に図書館となつてからは、各学校で社会見学や調べ学習を目的とした授業で図書館に来館して活用いただいています。

《第4次計画の取り組みに向けて》

読み聞かせサークル、図書ボランティアは図書館運営と読書活動推進において重要な存在であることから、継続した人材の確保・育成のために、今後は両団体の活動を広く周知しながら会員を募集し、育成を目的とした講演会等の開催も必要があると考えます。

学校図書館の運営は各学校により行われており、朝読書の実施以外にも各学校ではそれぞれの特色を活かした独自の取り組みにより読書活動を継続して推進しています。

今後、学校と学校司書、図書館が連携して取り組みなどの情報を共有し、活用していくことで豊かな読書活動の推進につながります。

第3章 第4次なかふらの町読書活動推進計画の取り組み

I 家庭・地域における読書活動の推進

乳幼児期に行なう読み聞かせは、子どもが本の楽しさを知る大切なきっかけづくりです。また、本の楽しさを知った子どもたちが、次に本と出会う喜びを知るためには読書の習慣化が必要です。そのためにもこれまで取り組んできた「家読（うちどく）」の継続した取り組みを今後も推進していきます。

- ・ブックスタート事業、ブックスタートプラスの推進
- ・季節ごとの読み聞かせ会の開催や、読み聞かせ活動の推進
- ・子どもの読書活動の推進
- ・「家読」の推進
- ・図書室まつりの実施
- ・読み聞かせサークル・ボランティアの育成

II 中富良野町図書館における読書活動の推進

中富良野町図書館は、町民にとって気軽に利用でき、たくさんの本と出会い、読書を楽しむことができる場として、読書活動の推進に大きな役割を担っています。

町の図書館として、本の貸し出し業務・レファレンスサービスだけでなく、本町の自然や歴史・文化に関する郷土資料の収集、地域に根ざした資料の収集にも力を入れていく必要があります。また学習コーナーが増えたことで中高生の利用は増えてきましたが、図書館の機能としての読書活動や、館内資料を活かした調査学習などにはあまり利用が多くありません。そうしたことから利用の幅を拓けてもらえるような蔵書の整備や資料の収集や、利用者のニーズに応じたサービスの提供が必要だと考えられます。

平成26年より図書館として開館し数年が経過しましたが、来館者アンケートからも図書館の持つ機能や活動状況について、広く町民に周知することが必要であり、よりわかりやすく、積極的な広報活動を行っていく必要があります。

①複合施設「なかまーる」での図書館機能の強化

現在の中富良野町図書館は複合施設「なかまーる」の2階に位置しています。同2階には教育委員会が、そして公民館としての機能も併せ持っており、また1階には町福祉課、社会福祉協議会、ふれあいサロンをはじめとし、デイサービスセンター、老人福祉センター、保健センターも兼ね備えています。

そうした多種多様な属性を有しているということは、様々な年代の町民が訪れる機会があるということを示しています。そこで前述の部分を含め、以下のサービスの強

化に努めていきます。

- ・自然や歴史・文化に関する地域に根ざした郷土資料の収集と学習資料の充実
- ・インターネット上や広報、図書館内での、図書館の情報と地域の情報発信の強化
- ・高齢者サービスの拡充……デイサービス利用者などへの協力支援
- ・町福祉課との連携・支援……ブックスタート事業、乳幼児と保護者へのサービスと支援、障がい者サービスの拡充、健康関連資料を用いた取り組み等
- ・公民館との連携・支援……サークル活動との連携・資料提供、講座等
- ・町内関係団体と連携した活動……読み聞かせサークル・ボランティア等の団体と連携して幅広い年代に向けた取り組み

②学校・学校図書館への公共図書館からの支援

各学校は、学校図書館担当教諭と学校司書の工夫やP T A・地域のボランティアの理解と協力を受けて、様々な試みを行っています。中富良野町図書館は公共図書館として、各学校への各種支援を行っています。

- ・児童・生徒への読書活動の支援…巡回図書、読み聞かせ活動の支援
- ・授業や学校の活動の為の支援……団体貸し出し、レファレンス等
- ・学校図書館の整備の支援……学校図書館の環境整備、読書活動の支援
- ・町内関係団体との連携・支援……読み聞かせサークル・ボランティア等の団体と連携した読書活動支援

Ⅲ 学校などにおける読書活動の推進

学校は子どもたちが日常的に本に接する場所として、読書活動や読書指導の場としても重要な役割が求められています。読書活動を通じて人間形成、自己形成に大きく影響し、学力の向上につながるだけでなく、人と本、そして人と人のつながりも生みます。また「生きる力」を育むことを目指し、読書活動から「思考力、判断力、表現力」などを学び取ることを目的とし、本町教育の目指す姿である「心豊かに学び、明日のふるさとをともに創る人を育む」につなげていきます。

①読書習慣定着への取り組み

朝読書の継続はもちろん、読み聞かせ会の実施や読書活動事業へ参加することにより読書習慣の定着を目指します。

また中富良野町図書館が中心となり、学校司書と連携して各学校図書館の取り組みを調査し、各学校の図書担当教諭と情報を共有して効果的な読書活動を推進していきます。

②児童巡回図書の実施継続

現在は周辺の小学校3校（旭中・字文・西中）において、児童巡回図書を行っています。120冊の図書を3ヶ月ごとに入れ替え、新たな本に触れる機会を作っています。また「読書ノート」にそれぞれ読んだ本の感想や次に読む人へのお勧めの本などを記入してもらい本を通して人とのつながりを図っています。今後も継続した実施を行っていきませんが、「読書ノート」については平成25年度の開始以降、なかなか記入が増えていない現状となっています。この点については本を通じた交流が増えるよう、更なる工夫を施して実施していきます。

③学校（学校図書館）・学校司書・図書館司書との連携

令和7年度に供用開始予定の中富良野小学校・中富良野中学校の新校舎では、小学校と中学校が一つの建物となり、設備と機能を充実した学校図書館が整備される予定です。今後、新校舎の学校図書館が基幹となり、周辺小学校の図書館と学校間のネットワーク体制を強化して、中富良野町図書館と連携した図書管理や読書活動における支援をさらに推進します。

- ・学校図書館の利用促進を図るため、読書環境の整備に努めます。
- ・学校と読み聞かせサークル・ボランティアやPTAと連携し、読み聞かせ会をはじめとした読書活動に努めます。
- ・各学校の図書担当教諭と学校司書、図書館司書が連携して、現状の課題や改善点などの情報を共有し、各学校にあった読書活動を推進します。